

医療群 全米衛生週間を実施 *Yokota MDG Observes National Public Health Week*

April 19, 2021

By Airman 1st Class Tyrone Thomas
374th Airlift Wing Public Affairs

4月の第1週、全米公衆衛生週間が始まった。この週間は、横田基地で健康水準や生活の質を維持するために重要な役目を果たしている公衆衛生の専門家たちの仕事に着目することを目的としている。

全米公衆衛生週間のメインのテーマは、健康への意識、教育、心構えについて議論を促進することだが、公衆衛生小隊はこの期間をまた、スキル向上と部隊活性化のための機会にするべく取り組んでいる。

「全米公衆衛生協会は、1995年に全米公衆衛生週間を発足した。開始当初は、例えば、肥満、喫煙、HIVの予防などの人々に影響する公衆衛生問題についての認識を広めることに重点が置かれていた」と第374運用医療即応中隊公衆衛生技師アンバー・キング上級空兵は述べた。

さらに言えば、公衆衛生上の主要問題の意識が高まるにつれて、公衆衛生をめぐる議論も変わってくる。それは健全な意思決定と環境(公衆衛生の専門家の環境を含む)を促進するための議論だ。

「我々にとって、全米公衆衛生週間は、自分自身を奮い立たせる期間だ。最高のコンディションで活動するために、管理する全ての人の福祉を保つことは大事だが、小隊としての効率を維持することも重要だ」と第374運用医療即応中隊公衆衛生小隊長シルビア・ガーシア上級曹長は述べた。

公衆衛生小隊は、全米全国公衆衛生週間の本来の目的よりもその範囲を広げた。この週間は、今まで以上に健康と福祉の基準を維持しなければならないことを再認識させるものだ。

「公衆衛生の使命は、病気、障害、早死にを防ぐことだ。疾病管理センターから与えられたガイドラインの遵守から、産業保健部門の管理、フライトラインから空兵の食事に至るまで、主な目的は任務に悪影響を及ぼすものを防ぐことだ」とガルシア上級曹長は語った。

「我々は、ジム、理髪店、美容院など、一般的な公共施設を監査する。全員がライセンスを取得し、利用者の安全を確保するためにあらゆる予防措置を講じている」とキング上級空兵は述べた。

公衆衛生小隊は、沢山の一般利用施設のほかに、基地内のさまざまな飲食施設の監査を担当している。サムライカフェ、下士官クラブ、将校クラブ、などがその一例だ。

「あまり知られていないが、公衆衛生小隊は基地内のすべての飲食施設で食品検査を実施している。基地内の食品の品質に問題があれば呼び出される。問題が検査に値すると判断した場合、品質保証の為にランダムにチェックに行く」と第374運用医療即応中隊職業健康技師マラチ・ホイットニー上級空兵は述べた。

公衆衛生の専門官は、昆虫、特に蚊によって媒介される可能性のある感染症予防も担当している。

「5月から10月にかけて、光と炭酸ガスを誘引剤とする特殊なトラップで蚊を捕獲する。メスの蚊を採取して、医学的に問題のない虫と選別し、オハイオ州のライト・パターソン空軍基地に送り、ウイルス検査を行う。アメリカでは、蚊は西ナイルウイルスを媒介し、日本では日本脳炎を媒介する」

ライト・パターソン空軍基地は、蚊が保有する可能性のあるウイルスや病気について、横田の公衆衛生チームに知らせ、公衆衛生官は、蚊が基地の健康リスクになりうるかどうかについて、より適切なアドバイスをする。



「予防医学や啓蒙活動を行う上で、人々が規則を順守しているかどうかを確認することは、地味な仕事だ。しかし、基地内のすべての人の安全のためには必要な仕事だ」とホイットニー上級空兵は語った。